



「172のこころ」

あるお部屋遊びの時間。「先生！見て！」とのRくんの声に振り返ると、R君の手には苦手だったあやとりが。「Hちゃんが上手だからおしえてもらったんだ！」と、折り紙やあやとりが得意なHちゃんにおそわったことを嬉しそうに話し、あやとりを披露してくれました。

また現在取り組んでいるバルーン作りでは、グループごとに図案を作成する際に「〇〇くんは星描けるからここに描いて」「じゃあおれは〇〇描くね」「〇〇くんは色塗り上手だからここお願い」などのやりとりが聞かれました。「みんなの得意なことが集まったやつにしたんだよ！」と見せてくれた図案は色鮮やかで、みんなの得意がつまり、輝いて見えました。最近では「〇〇ちゃんはこれが上手だから」や「これおしえて」などの会話が、日常の中でよく聞かれるようになった年長さん。”そのままの自分を受け止められ、認められること”で、友だち同士でも良いところを認め合えるようになっているのだと感じます。

”あなたは あなたのままでいい！”





会ったことのない被災地の方々に想いを送りながら義援金や物資を用意する大人たちの姿は、子どもたちの目にどう映ったのでしょうか。普通の日常が1秒に有り難いものなのか、今回の震災を通して話題にされたご支援もあるかもしれません。同時に感じたいのは、大変なこともあるけれど、差し伸べてくれる手が必ずどこかにあるこの世の中は、生きるに値する素晴らしい世界だとしよう。今はまだ理解が難しくても、誰かのためになろうとする大人の想いを幼いながらも感じとってあげてほしいです。たくさんのご協力を頂き、本当にありがとうございました。

1月末の雪の日の朝、重い荷物を抱えて玄関に入ってくる保護者様の姿がありました。雪で滑る玄関口を、ヒールの靴で「今日しか余裕がないから。」と笑顔で運んでこられたのは、ペットボトルが24本入った段ボールで、能登半島地震への支援物資。たださえ大変な雪の朝、出勤前に我が子を連れてたまま、そう笑顔で言われる保護者様の姿が本当に素敵でした。そして、そんなお母さんの姿を傍で見ているお子様はどんな気持ちだったのだろうと思ったのです。

先日取らせて頂いた園への感想のアンケートに「時に子育ては孤独である」という言葉がありました。お一人で育てている方、お二人で育てている方、またはそれ以上で育てている方。それぞれの形があると思います。しかし、不思議なもので、何人で育てていてもふとした瞬間に孤独になることがあるものです。複数で育てているから余計に苦しくなる瞬間も。また、そこに正解はなく、近いゴールもなく、お手本らしきものを目にする事があっても、それが今日の我が子に通じるかというまた別の話。

親は夜空の星と同じ。自分なりに精一杯輝いているけれど、それぞれが離れていて、他の星が輝いて見える。気が遠くなるほどの孤独を感じることもある。しかし、何光年も離れたこの場所までしっかりと届く光のように、皆様の揺るぎない愛情を、お子様は十分に感じとっています。

「あの時、あんなに大変だったのに、あんなに一人ぼっちだったのに、自分に寄り添ってくれた。誰かのために精一杯生きていた。」ことをずっと心の奥に覚えていて、今度は自分の大切な人のために生きる強さへと変える瞬間が必ず来ます。そしてその想いはバトンのように、ずっと受け継がれていくのです。

ですから、今日は孤独を感じても大丈夫。皆様は決して一人ではないし、他の誰も成し得ない素晴らしい日々を重ねていることを、どうぞ忘れないでください。

